

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799200122		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	アミライフ・鶴見 第①ユニットすみれ		
所在地	大阪市鶴見区今津北2丁目6番8号		
自己評価作成日	平成30年1月3日	評価結果市町村受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=2799200122-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中であつてもその人らしい生活が出来るよう、1人1人のニーズにあつたケアを心がけています。毎月、季節にあつた行事を行い、外出や施設全体でのレクリエーションを行ったり、毎日体操やゲームなど行っています。ユニット単位ではなく、入居頂いている皆様、職員がコミュニケーションをとれるよう事務所を開放し、それぞれ行き来出来るようにしています。医院との連携により、訪問看護も往診医の事業所と連携し、速やかな健康管理を行えるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、散歩や近くの商店に買い物に出掛けた時に近隣の人へ挨拶をすることで地域に事業所の認知度を高めると共に、地域との交流を少しずつ深めています。運営推進会議やケアマネジャー、近隣に住む職員からも地域の情報をもらい小学校での夏祭りや地域包括支援センター主催のふれあい祭に利用者と一緒に参加したり、併設の事業所のスペースを提供して開催する地域の行事に利用者と一緒に行く等、利用者が楽しみサービスの向上に繋がるよう努めています。食事は三食いずれも事業所で作り利用者は同じテーブルを職員と囲み談笑しながら一緒に食事をしたり、外食や手作りおやつを楽しんでもらっています。職員間で様々な意見を出し合い協力し笑顔での対応を心掛け、思いやりを持って利用者のペースを大切に日々支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「笑顔・信愛・憩い」をスタッフ間で共有し、実践しています。	法人の理念を事業所の理念として職員の入職時に理念に込められた思いを説明し、会議等で折に触れて理念について話すことで意識付けを行っています。利用者や職員間でも笑顔で思いやりを持ち利用者のペースを大切にしながら支援に取り組むことで理念の実践に繋がっています。事業所の独自の理念の作成を予定しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの商店に出掛けたり、地域の訪問美容を利用しています。地域行事にも参加したり、地域行事の会場としても、場所を提供しています。	運営推進会議や近隣から来ている職員から地域の情報を得て、小学校の夏祭りや地域包括支援センター主催の祭りを観に利用者とお出掛けしています。併設の事業所内で開催される行事に利用者とお観に行ったり、事業所の敬老会に合唱のボランティアが来る等、地域との交流を少しずつ深めることで利用者へのサービスの向上に繋がるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽にお声かけて頂けるよう、いつでも施設内見学や認知症についてのお問い合わせに対応して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みに関してご意見頂き、参考にさせて頂いている。行事や地域の活動等の情報を頂き参加させて頂いている。	会議は2か月に1回利用者代表や家族、町会長、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、利用者の状況伝達や行事等の連絡、事故報告等を行い意見交換をしています。地域の行事等の情報を得て参加を検討したり、事故対応策を話し合い実際に取り組む等、会議を運営やサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当ケースワーカーと連絡を取りあっています。利用者の訪問時や不明なことがあった場合電話や区役所に出向き相談しています。	手続きで行政の窓口への訪問したり不明点の確認を電話や訪問し行っています。区主催の事業所連絡会に参加したり、市の研修センターに登録し研修等の情報を得て可能なものには参加し行政と良好な関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加した職員が報告書を作成し、回覧している。安全のため、玄関は常時施錠しているが、要望があれば、職員が付き添って外出しています。2階のユニットは事務所を開放し、お互いのユニットが行き来出来るようにしています。	年1回法人主催の身体拘束に関する研修に職員代表が参加し事業所で伝達して職員は知識を身に付けています。会議で事例を基に身体拘束の説明をしたり、業務優先ではなく利用者優先での支援を心がけ拘束の防止に繋がっています。玄関やフロア入口は施錠していますが、外出希望の利用者には職員が寄り添って外出して気分転換を図り、閉塞感の無い支援に努めています。	

アマライフ・鶴見 第①ユニットすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内の他事業所が集まり、2ヶ月に1回研修を行い情報共有をしています。良い資料や情報などがあればお互い持ち寄り周知しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご相談に応じて、社会福祉協議会「あんしんさぼーと」を利用する支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をとり、説明を行っています。不明な点などは適時ご説明させて頂き、ご理解頂くまでご説明させて頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、職員とも話しやすい環境作りに努めています。意見は、運営やサービスの向上につなげるよう努めています。	利用者からの希望や要望は日々の関わりの中で聞き外出や行事等に反映しています。家族からは面会時や電話等で意見や要望を聞き、得られた意見から夜間用のおむつの変更や入浴後の保湿剤の使用に取り組む等、職員間で検討し運営やサービスの向上に繋げるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議、2ヶ月に1回ユニット会議を行っています。職員が自発的に意見を言えるよう工夫しています。出来る限り、職員からの意見を反映できるよう努めています。	毎月行う全体会議や2か月に1回開催するユニット毎の会議で職員の意見を聞いています。会議では管理者は出来るだけ見守るだけに努め、全体会議では職員が持ち回りで議長や書記長を決めて開催し、ユニット毎の会議はリーダーが中心となって行うことで意見を得やすいように工夫しています。半年に1回の個人面談や職員の様子を見て声をかける等、出来る限り多くの意見を得られるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	発注業務や行事を担当制にし、1人1人が責任をもち、やりがいを持てるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を掲示したり、力量にあった研修に参加できるよう勧めています。職員同士の自発的な研修も行っています。		

アミライフ・鶴見 第①ユニットすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会に参加させて頂いたり、研修を行う場所を提供しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはホームの見学や面談を行っています。入居後は情報共有できるよう日々の申し送りや生活記録に細かく情報が記入できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせの段階から現況を伺い、要望把握するよう努めています。面会時は、現況の報告をするよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望をお聞きしたときには、他の介護保険サービスや保険外のサービスが利用出来る可能性をお話させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活が送れるよう残存能力を活かしたケアを行っています。出来ることが増えた時には一緒に喜び合えるような身近な存在になれるように日々心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様で出来ることはして頂いています。また、職員の思いも伝えさせて頂くこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクリエーションや散歩に馴染みの場所を取り入れたり、ご友人の面会の際にはお声かけさせて頂き親しみやすい環境作りを心がけています。	友人や親戚等の来訪時にはリビングや居室に案内し、お茶や椅子を出す等ゆっくり過ごせるように配慮しています。職員と馴染みの商店へ買い物に出掛けたり、家族と一緒に自宅や外食、墓参り等へ外出する際には日程調整等の事前の準備を支援しています。手紙を出す利用者には封筒を用意したり投函を手伝う等、出来る限り馴染みの人や場との関係継続の支援をしています。	

アミライフ・鶴見 第①ユニットすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、食席や居室を配置しています。仲違いしたときには職員が仲介し、互いに関わり合えるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には、事情を考慮した対応を心がけています。退去後の行き先のご相談もお受けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から本人の希望・意向を汲み取り情報共有しています。	入居時に自宅や施設に訪問し利用者や家族から面談で希望や生活歴、身体の状態、嗜好等を聞き独自のシートにまとめて意向の把握に努めています。入居後は日々の利用者の言葉や様子を記録し家族にも伝えて思いを汲み取るように努め、困難な場合でも申し送り時やカンファレンスで職員間で本人本位に検討して思いや意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人様とお話する機会を作り、把握するよう努めています。情報を共有し、生活歴などを振り返ってケアの方向性を決定しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や生活の記録を残し情報共有しています。また申し送りなどで変化を話し合い現状把握すると共にケアのあり方を思慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の気になることや希望・意向を聞き取り介護計画に反映するよう努めています。また、主治医や薬剤師と情報共有しケアの方向性などのアドバイスを頂いています。	アセスメントを基に作成された介護計画は6か月毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しも行っています。3か月ごとに計画作成担当者が日々の記録を基にモニタリングを行い、見直しに当たっては再アセスメントを実施してカンファレンスを開き事前に聞いた家族や看護師、医師の意見も反映し現状に即して計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録を作成し個人ファイルに残しています。概ね2ヶ月程度はすぐに振り返って確認出来るようにしています。		

アミライフ・鶴見 第①ユニットすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の面会が難しく外出する機会が少ない方には外出する機会を作ったり、必要と思われる事を常に考えその方にあった支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にボランティアを呼び合唱などのレクリエーションを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に往診医の説明を行い承諾を得ています。往診以外の受診は、職員が付き添い受診しています。また、主治医・薬剤師・訪問看護を連携を行っています。	入居時にかかりつけ医を継続して受診するか協力医の往診を受けるかを選択してもらい、全員が協力医の月2回の往診を受けています。緊急時は協力医に24時間連絡可能で必要な指示をもらったり、随時受診に行っています。専門医へは職員や家族の対応で受診し、週1回訪問看護師による健康チェックを受け、利用者の希望や必要に応じて訪問歯科の口腔ケアや治療を受ける等、適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、受診の必要性やケアなどの相談を行い、主治医とスムーズに連携をとって頂けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室との連携を行っています。入居のご相談等もお受けし、入院時は合同カンファレンスなどで情報共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関わる指針をご説明し、承諾を得て契約を行っています。	入居時に家族へ利用者が重度化した際の事業所として対応可能なことを説明しています。これまでに看取り支援の経験はありませんが、利用者の重度化が進んだ際に改めて家族と職員、医師で話し合い看取りの体制を決める予定です。法人内の他事業所の看取りの経験を聞いたり、情報を得て知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	他事業所と合同で研修を行い、報告書を作成し情報共有しています。		

アマライフ・鶴見 第①ユニットすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間・日中を想定した避難訓練を行っています。消防署に立ち会いの下、消火訓練・通報訓練を行っています。	訓練は年2回それぞれ昼夜の火災を想定して実施し、内1回は消防署立会いの下利用者も参加して通報や避難誘導、初期消火の訓練を実施し、消防署員からアドバイスをもらっています。運営推進会議で訓練の報告を実施し、次回は町会長も訓練に招く予定です。水やパン等の備蓄を行い、米も多めに用意して備えています。	訓練実施時には町会長の参加の実現や近隣の方へ案内を行い参加してもらう等の協力体制の構築に向け働きかけられることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	関係性を作れるよう、1人ひとりにあった言葉掛けを行っています。また、ユニットごとにカンファレンスを行い、対応について適正か話しあっています。	年1回法人の接遇に関する研修に職員代表が参加し事業所で内容を伝達し職員は知識を身に付け、管理者は事業所の会議の中でも接遇に関する話をしています。利用者は失礼にならない言葉遣いに努め、不適切な言葉かけが見られた場合はその都度注意し、職員同士でも注意し合っています。利用者の希望に応じて同性介助をする等羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望・要望等を傾聴し、出来る限り本人の思いを尊重した生活を心がけ、思いを伝えやすい環境を作れるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望に沿って、入浴のタイミングや食事の時間を調整しています。食事のメニューは食べられない物がある場合は変更したりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みに合わせて衣類を選んだり、訪問美容では、希望に合わせて染髪しています。乳液や化粧品なども希望があれば購入しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下善をして頂いたり、希望に合わせてその日のメニューを変更しています。毎食職員も一緒に食事を摂っています。	献立にそった食材が業者から届き事業所で三食とも手作りし、利用者も野菜の下拵えや下膳等出来る事に携わってもらい、職員も同じテーブルで利用者と談笑しながら一緒に食べています。出前で寿司を取ったり、クレープやどら焼き等のおやつ作り、また事業所で育てたイチゴを採って食べたり外食に出掛ける等、食を楽しんでもらえるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し生活記録に記入し1日の摂取量を把握している。必要な方にはおかゆや刻み食、ミキサー食を提供しています。		

アミライフ・鶴見 第①ユニットすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の残存能力を活かし、毎食後の口腔ケアを行っています。必要な方、希望のある方には週に1回訪問歯科を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は極力おむつ交換ではなく、トイレ誘導を行っています。夜間のポータブルに使用など利用者の個々に応じた排泄支援を行っている。	座位の取れる方はトイレでの排泄を基本としています。利用者毎に排泄の記録を取り個々のパターンを把握し、利用者に応じた声かけや案内をしています。排泄支援を継続して、退院時におむつを使用していた方がトイレで排泄でき布の下着に戻る等排泄状況が改善した方もいます。利用者個々に応じた排泄支援の方法や排泄用品の種類は職員間で話し合い排泄の自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の頻度・量などを把握し、主治医と相談し下剤の調整を行ったり、日々の体操や水分量を調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人がゆったりを入れるよう、一日の入浴人数を3人にし、希望があれば時間帯問わず入浴できるようにしている。	入浴は週2回を基本として午後の時間帯に支援していますが、希望に応じて朝や夜の入浴や回数を増やすことにも出来るだけ対応しています。入浴拒否が見られる利用者には声をかける日時を変えたり仲のよい利用者同士で入ってもらう等、工夫して無理なく入浴してもらっています。ゆず湯を実施したり好みのシャンプーやリンス等の持ち込みも可能で1人ずつゆっくり入浴出来るように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床前にホットミルクを提供したり、寝付きの悪い時は、フロアでお茶を飲んで少しお話をしたり、その時々に応じて、落ち着いて過ごせるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬の情報を利用者ごとにファイリングしており、職員が閲覧出来るようにしている。生活記録に服用の内容など記入するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のおやつや購入や持ち込んだものを共有の冷蔵庫に預かりいつでも食べられるようにしている。塗り絵や貼り絵・編み物なども好きな時に出来るようにしている。		

アミライフ・鶴見 第①ユニットすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き、ご家族様と相談したり、行事に取り入れるようにしている。おやつを買いに出掛けたり、受診の帰りにお茶をして帰るなども行っています。	気候の良い時期にはほぼ毎日散歩に出掛けたり、外気浴や外での体操を楽しんでいます。季節に応じて初詣や桜の花見に出出したり、植物園に出掛ける等、外出の機会を多く作るように努めています。また、個別でおやつ等を買って出掛ける方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額であればご本人様でお持ち頂く事は、紛失の際こちらでは責任がとれないことを承諾の上でお持ち頂いています。お小遣いでおやつを購入したりして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや手紙の送付などしていません。月初めには、ご家族様へ1ヶ月の様子を担当スタッフがお手紙として記入し、送付しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に制作した物や、写真などを掲示しています。共有フロアでメダカを飼っています。	生花や観葉植物を飾ったり、季節毎に利用者が作った貼り絵を掲示して季節が感じられ温かい雰囲気を作っています。廊下に机や椅子、ソファを置き1人になれるスペースを用意しています。毎日換気や掃除を利用者も出来ることに携わりながら実施し、利用者の体感を聞きながら室温を調整し、加湿器や濡れタオルで湿度に配慮し快適に過ごせる共用空間を作り努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置しくつろげる場所を作っています。事務所を開放しており、1人になりたいときやゆっくり話せる空間を作れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限りご自分の使用しているものや思い入れのある物を持ち込んで頂き使用して頂いています。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように伝えテレビや机、椅子、人形、家族の写真等の持ち込んだものを家族と相談しながら配置しています。編み物の道具や本、ラジオを持参し楽しんでいる利用者が居たり、希望があれば畳を設置して布団を敷いて休むことも可能です。換気や掃除は毎日実施して清潔保持に努め、その人らしく快適に過ごせる居室を作り努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室にわかりやすい絵で表示を付けています。居室にはネームプレートと部屋番号を表示して、ご自分の部屋がどこにあるかわかるようにしています。		